

えびっぴ

11

立川と語ろう 立川に生きよう
November 2003
écoutez bien Vol.22 No.228



表紙の人 天野孝一（錦町）
写真 細江英公



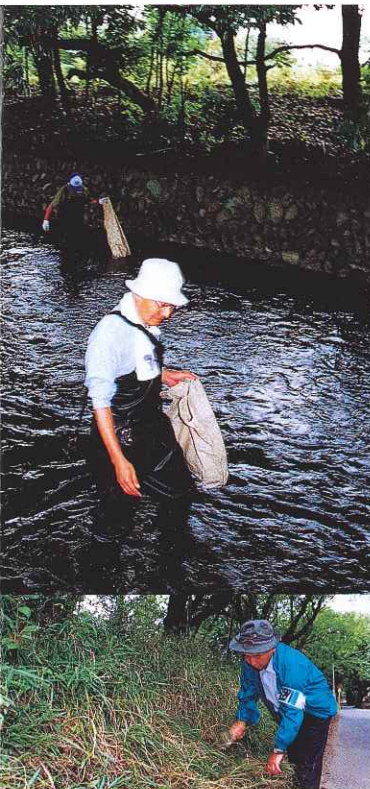
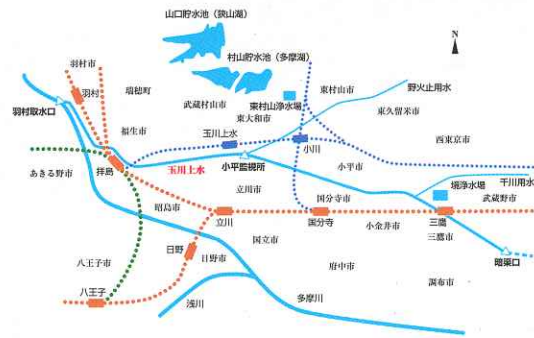
多摩川の羽村堰から四谷大木戸まで延長43kmの玉川上水が開削されて今年350年を迎える。江戸開府の50年後、わずか8カ月の突貫工事で作られたという水路は江戸・東京に飲み水を提供し続け、周辺をうるおし、兩岸の美しい自然とともに憩いの場となっている。

江戸をうるおした水路

開削350周年の玉川上水

写真：五来孝平 他

「玉川上水の自然保護を考える会」は月2回上水の清掃や水路外側の草刈りを行っている



7月26日に行われた羽村市郷土博物館主催の玉川上水自然観察会



野草のある場所に標識を立てる

2時間ほどの清掃で集まったゴミを整理

上水の起点、羽村市では今年玉川上水350年を記念して多くのイベントが開かれている。羽村市郷土博物館が企画する自然観察会もその一環。夏の観察会では拝島駅付近から武蔵砂川駅付近までを歩き「はむら自然友の会」の人たちの解説で水路に沿って茂る木々や野草を観察した。

江戸と沿線の人々の文字通り命の水としてゴミを引き揚げ定期的に補修しながら嚴重に管理されてきた上水。350年を経た現在、水供給の比率では主流の座を譲り小平監視所から下流は下水処理水が流されている。だが雑木林や桜に彩られた水路沿いは昔ながらの武蔵野の自然が残る貴重な憩いの場。今年、国の史跡にも指定された。

立川市の市民グループ「玉川上水の自然保護を考える会」は市内を流れる玉川上水の清掃や野草保護を定期的に行っている。上水を管理する都水道局から特別に許可をもらい、水路のゴミを引き揚げたり野草の生えている場所に標識を立てて保護し、道路脇の土手面も野草を残して草刈りをする。昔も今も、多くの人々の力によって上水の流れがある。

アートは多様な価値観のメッセージなのです。



「柿の木カンパニー」施設長
中田智子さん

■中田智子(なかた・ともこ) / 日本社会事業大学社会福祉学部を卒業後、1991年より立川市内の精神障害者共同作業所「柿の木カンパニー」スタッフ。96年より同施設長。精神の病気を抱えながら暮らす人々と生活上の問題を一緒に悩んだり、一緒に働いたり、遊んだり、創作活動をしたリ、イベントを考える活動をしている。

■芳賀敏博(はが・としひろ) / えくてびあん編集長

於：えくてびあん編集工房
写真：小林 達実

芳賀 9月30日まで立川市内のカフェレストランで、柿の木カンパニーの絵画教室作品展「あーとカフェ」を開催していましたね。見せていただきましたが、どの作品もパワーがあって良かった。お店のランチもおいしかった。ちょうどお昼どきでOLの方がたくさん来ていて、みなさん違和感なく絵も食事も楽しんでいるのが好ましかったです。

中田 そう見ていただけたらうれしいです。5、6年前に多摩地域のいくつかの作業所が集まって展覧会を2回開いたんですが、単独の展覧会は初めてなんです。会場も障害のある方たちが運営しているお店ですが、障害者のアートだということはあえて宣伝しませんでした。前提抜きで作品を見て、そこから伝わるものを受け取ってもらいたかったんです。

芳賀 昨年は立川市総合女性センター「アイム」で、障害者によるアート活動を

テーマにした日本とオーストリアの映画を上映しましたが、ふだんはどういう活動をされているの？

中田 柿の木カンパニーは平成元年にできた精神障害の方のための共同作業所で、立川市の委託を受けた公園の清掃や花壇管理、企業などと契約してメール発送、箱詰めなどの仕事をするほかに、アート教室、パソコン教室、みんなで外出したりといったことをしています。アート教室も中心メンバーは6、7人。月1回ボランティア講師の方に来ていただいて開いています。そういう活動をしながら、個別に地域での生活や就労に向けた相談に乗ったりもします。どんな活動を選ぶとか何日通所するかはご本人に選んでもらっていて、あくまでその人なりの生活を支援することを大切にしています。

芳賀 障害者問題といったことはよく知らないんですけど、身体障害にしろ知的

障害、精神障害にしろ、社会のなかに大きな壁があることは否定できないと思うんです。以前中田さんから、障害を持った方は家族とか周りの方に働けないということでひげめを感じていて、絵を描くことを通じて認めてもらえるのがすごくうれしいというようなことをうかがいました。アートは人間としての価値のひとつのチャンネルなんだというのが印象的だった。

中田 そうそう、そんなことをお話しましたね。多くの方が発病してドロップアウトしてしまうと、ほめられるとか認められるとかという体験が本当に少なくなると思うんです。働けなくなって自分自身の収入を得ることができず余計に。絵画教室を始めたときに「絵を描いてみない？」と誘っても、まず自分は絵なんてダメなんだ、下手なんだと言われる。実際に描いてみると色遣いとか線の豊かさがすごいんですよ。評価を得ること以上に、絵を描いたことで自分の表現や、言葉ではない周囲とのコミュニケーションの方法を得ることが大きいんです。彼らの絵には正規の教育で受けるような基礎はないですけど、その人そのものとしかしいような才能、個性が表れて、うらやましいと思うことがよくあります。

芳賀 言葉によるコミュニケーションができるとかできないとかをスッと取っ払ったところで対等になれるものがアートにはありますよね。

中田 作業所などに通われている方は、障害があるが故にいろんなことができない状況があって、そこから少しでもできるようになることを要求されることが多い気がするんです。柿の木では障害があっても地域でなるべくその人らしく生きていけるお手伝い、応援をするようにしていますが、実際の作業になると、ここまではできるようになってほしい、となることがある。そういう関係性は不自然

だ、もっと違う関わりをしたいといつも葛藤があるんです。アート活動には、これがいい絵だとかこれが正しいとかがないでしょ。正解がないという関係はお互いに自由になれる。広がりがあり緊張したものが緩んでいくんです。

芳賀 あるがままを受け入れるって実はむずかしい。でも、これもありだよ、といえるところがアートの強みなんですよ。そういう自由さって、障害があるなしに関係なく大切なんじゃないかな。たぶん今度のあーとカフェを見た人は、すごく解放された気持ちになったと思うんです。これもありだよ！ と。それは社会に向けた力になると思う。

中田 柿の木に遊びに来られた方とか研修に来られた方が、ここは緩やかなペースでホッとしますねとよく言われるんです。そういう時に話すのは、ホッとできる空間がもっともってほしいあったらいいですよとか、どうしてあなたが今いる学校や職場、周りの人間関係がホッとできないんでしょうねということ。多くの精神障害の方はいまの社会のペースだと価値観とかのなかで苦しくなって、もう自分はこれ以上がんばれない、その表現のひとつとして発症するという側面もあると思うんですね。今年の夏、ある利用者の方が具合が悪くされたんですが、その方は8年前にもとても具合が悪くなった。8年前には阪神大震災があり、その後心が揺れてしまったんです。今年はイラクの爆撃がありました。そのことにとっても心を痛めているいろんな要因も重なって具合が悪くなってしまった。彼のことを考えたときに、何千人の人がいっぺんに亡くなって、その恐ろしさを感じ取って具合が悪くならない方がおかしいのじゃないだろうか。しんどい社会と折り合いをつけられない方がまっとうなんじゃないかと思うことがあります。ところで障害ということ以前映画監督の羽

仁進さんがおっしゃっていた話なんですけど……働き蟻というのがいますよね。

芳賀 蟻ですか？

中田 ええ。蟻の集団は一匹の女王蟻と大勢の働き蟻がいますが、ある割合で働かない働き蟻がいる。働かない蟻をその集団から外して働く蟻ばかりを集めても、同じ割合で働かない働き蟻になってしまうんです。これってすごく面白いなと思うんです。人間の世の中でもなんらかの障害があったりして働けない人たちは、大きな視野で見たら何かの理由や役割があって存在しているんじゃないかなと。

芳賀 それは生きている種とか、そういうものが続いていくために遺伝子に組み込まれているのかな。喩えればハンドルの遊びみたいなもので、許容力や包容力がある社会の方が健全なんでしょうね。

中田 精神障害の問題でいうと、多くの人が仕事のストレスがたまって眠れなくなったりとか、ちょっと抑鬱的な気分になることがあると思うんです。それと同時に多くの方が自分が世の中の少数派になることを怯え恐れている。何らかの精神的な弱さとか疾患とかになったら「負け組」だと。その怯えが自分自身や周りの人の弱さへの許容範囲を狭くしていつてしまうんじゃないでしょうか。本当に必要なのは、みんなのなかにある共通する部分、つながっている部分に触れて、弱さを許容できるようになることだと思うんです。だからこそ多数派からははずれた人たちからの発信がいっそうある意味を持つんじゃないかな。自分たちはこういう価値観を持っているよ、こういう価値観を持って生きていると幸せが多いんだよということを発信していく。少数派だからこそ持てる豊かさ、少数派だから見える世界を共有できるように、アート活動やいろんな形で発信していければいいなと思っています。

錦町	そば処 高尾亭	錦町5-5-31 522-2710
	Natural Food Restaurant シェいなば	錦町5-19-9 529-5921
町	レストラン ラ・ボボラリータ	錦町6-9-25 527-3880
	高齢者総合施設 至誠ホーム	錦町6-28-15 527-0031
羽衣町	韓国居酒屋 木浦	羽衣町1-18-1 527-3006
	Cake Studio 35	羽衣町2-6-1 527-6808
	林 齒 科	羽衣町2-7-10 522-5657
	中島豆腐店	羽衣町2-12-34 522-5732
	フレッシュフルーツ 立川商店	羽衣町2-30-6 522-3565
	本・事務用品 泰明堂	羽衣町2-31-1 522-3353
	文具の ないとう	羽衣町2-33-1 522-3677
町	テ ザ ー 安 武	羽衣町2-33-11 522-4820
	株式会社 西友 西国立店	羽衣町2-40-1 524-5101
	赤松タバコ店	羽衣町2-42 524-7852
	まごころ銘茶 狭山園	羽衣町2-45-1 527-0146
	蕎麦処 かめ井	羽衣町3-2-17 524-8101
柴崎町	パスタビーノ はしや	柴崎町2-1-6-B1 521-3386
	明 誠 書 房	柴崎町2-1-11 523-6700
	味乃 寿 司 由	柴崎町2-2-8 522-3733
	す が の 歯 科	柴崎町2-2-16-2F 540-2675

えくてびあんの輪

人があつて、街があります。
あなたがあつて、立川があります。
そこにちょっとだけ、えくてびあん！
リストのお店にはいつでも、えくてびあん！

今月は錦町・羽衣町・柴崎町のお店です。

紙 匠 雅	柴崎町2-2-19-1F 548-1388
ウェルネス健康サロン	柴崎町2-2-23-2F 521-0289
ステーキ&欧風料理 クワトロ	柴崎町2-3-3 528-2983
Casual Restaurant ラ・バンパ	柴崎町2-3-3 524-5800
Pasta Frolla 立川南口店	柴崎町2-3-3 540-8033
不動産 ユウ都市企画	柴崎町2-3-13 528-2566
甘味処 石や	柴崎町2-3-15 524-0862
KIT'S SHOT BAR	柴崎町2-3-20-2F 522-8718
不動産 コマツホーム	柴崎町2-4-6 525-5811
喫茶 キャリー	柴崎町2-4-7 528-2630
かみゆい処 わ	柴崎町2-4-8 522-8202
芹沢ガラス店	柴崎町2-4-8 522-3065
お茶・海苔 小室園	柴崎町2-4-8 522-2894
ジョイフルプラザ アネックス	柴崎町2-4-14-1F 521-1228
ファッションハウス ホマレヤ	柴崎町2-4-15-1F 525-2788
焼きたてパン オーロール 立川店	柴崎町2-4-15 527-9473
純中国料理 北京大飯店	柴崎町2-4-19 522-6393
和食の店 ななや	柴崎町2-4-22 525-6980
田中星美堂薬局	柴崎町2-5-3 522-3913
特むし銘茶・海苔 菊川園	柴崎町2-5-6 526-2035

伝統は、新しい!

立川古民家園で能と三絃 ワークショップ+公演

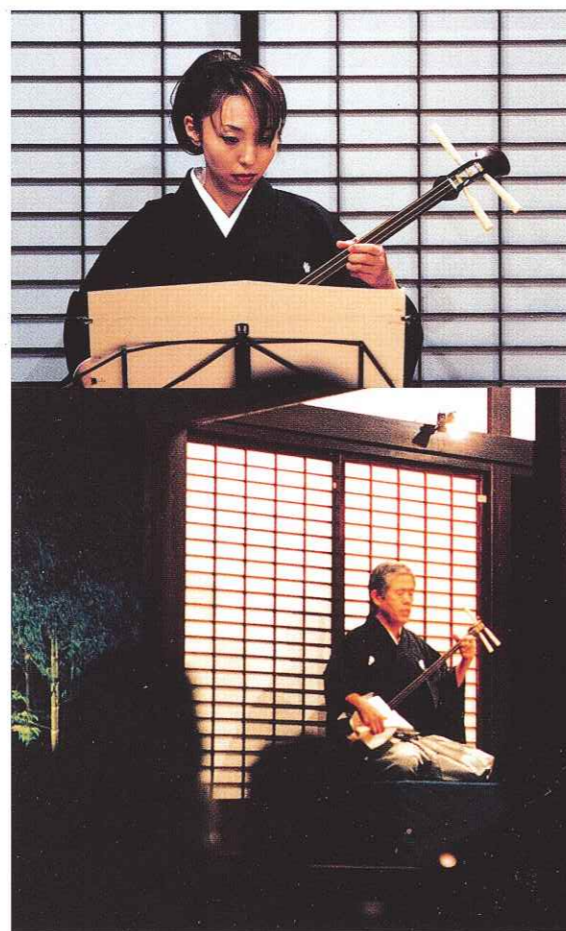
幸町にある川越道緑地古民家園「小林家住宅」が日本の伝統文化の舞台になった。能と三絃。第一線で活躍する演者や奏者が江戸時代に建てられた茅葺きの農家という場で見せ、聞かせた。古典と現代作品に、伝統と新しさが渾然と溶け合った。

市民が運営する立川舞台芸術フェスティバルの一環で古民家園を舞台に公演が行われたのは昨年続き2回目。立川在住のドイツ人作曲家ペーター・ガーンさんを芸術監督に、今年は昼の部で能のワークショップとミニ上演、夜の部では能と地歌・三絃の古典と現代曲のコンサートが開かれた。

ワークショップでは観世流能楽師で人間国宝の津村禮次郎さんが能の代表的古典作品である「羽衣」「屋島」を演じた後、津村さんの指導で子どもから大人までの参加者が、語りの音楽である能の地謡を謡い、面と衣装をつけて能の動きを体験した。

夜の公演は津村さんによる能「屋島」、同じ義経伝説をもとにした地歌「八島」を杉野雅喬さんの三絃と歌で演奏。三絃の現代曲の演奏やガーンさんと出演者によるトークなど。

圧巻は最後の津村さんと三絃の三宅礼子さんによるガーンさん作曲「offene Stege」上演。能の幽玄と三絃の音の繊細さがつくりだす優美で張りつめた時間が、虫の音の降り注ぐ古民家園の夕闇に流れた。



三宅礼子さん

杉野雅喬さん



写真：小林 達実



昼の部は津村禮次郎さんによる能の上演とワークショップ



ガーンさん、三絃の高田和子さん、作曲家の福士剛夫さんによるトーク



立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ

多摩ではこ
ネット

http://www.tamatebako-net.ne.jp/

多摩ではこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄

真如苑提供番組くじようらくがじょう

スカパーフェクトTV 216ch、マイテレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十六年

真如苑

柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)



パレスホテル立川

〒190-0012 東京都立川市曙町2-40-15

お問い合わせ、ご予約は

TEL 042-527-1111

FAX 042-527-5169

http://www.palace-t.co.jp

私たちは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……
いろいろなコミュニケーションがあります。
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、
行っている会社です。

と

大廣社は、企画デザインから
印刷加工までを自社内で完結しています。

PLANNING・DESIGNING
PROCESSING・PRINTING
大廣社
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
TEL 042-527-1949 FAX 042-527-1949
E-mail info@daikousya.jp

えてびあん流

国営昭和記念公園

「こどもの森」で遊ぼう!

ことし開園20周年を迎えた国営昭和記念公園。その一画にある「こどもの森」でも9月27日、20周年を記念したイベントが開かれた。題して「車にペイントしちゃ王!」。あそびを通じて子どもたちの場づくりを支援している立川のNPO法人、こどもと文化協議会・プラッツの企画で、約100人の子どもたちが2台のワンボックスカーに、自由に絵を描く催し。

午前11時から森に囲まれた芝の広場でイベント開始。集まった子どもたちが、用意された絵の具と筆を使って絵を描き始めた。会場の周りに張られた布にも思い思いの絵や文字がカラフルに描かれた。

30分後には、2台の車は色とりどりの絵でいっぱい。午後にはガラス部分のカバーを外し、子どもたちを乗せて会場の周りを回った。2台のうち1台はしばらく子どもたちのペイントのまま公園内を走る。10月25日にもこどもの森でプラッツによるイベントを予定。

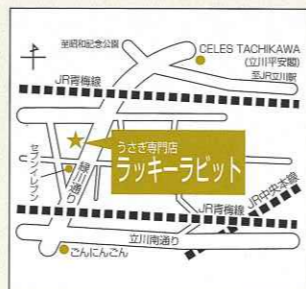
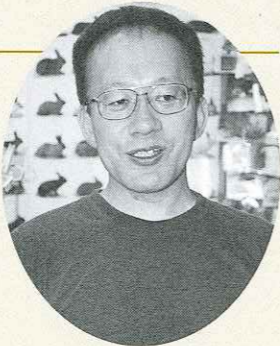


この人この店 ④

うさぎ専門店 ラッキーラビット

店長 柳澤時男さん

うさぎ専門店は多摩に2軒しかない。そのひとつが「ラッキーラビット」。うさぎの大好きなお客さんは、遠く山梨、千葉、埼玉から来てくれます。富士見町にお店を開いて4年目。顧客数は約1000人。うさぎは犬、猫に次ぐコンパニオンアニマルだそう。店長の柳澤さんは、飼いやすいペットとしてはうさぎ、と言います。「手のかからない、それでいて存在感のある哺乳動物なんです。奥の深い魅力があるんですよ」「おしっこのしつけも簡単だし、うるさくないし。昼間は寝ていて、家族が団らんする夜には一緒に遊ぶんです。表情がないという人がいますが、ちゃんとあります」と、うさぎの魅力を話し出したとまらない柳澤さん。顧客の7割が20～30代の女性だとか。「うさぎの微妙な気持ちの変化や感情を理解してあげられる、まあ、いうなれば大人のペットですよ」。血統書がついて35000円くらいから。基本飼育セットは11500円。純血種の繁殖もしています。



〒190-0013 立川市富士見町2-11-7
TEL 042-524-6054
営業時間 平日AM11:00～PM7:00
定休日 月曜・第2火曜(祝日は営業・翌日休業)
HPアドレス http://www.lucky-rabbit.com/



生後3週間のネザーランドドワーフ
写真:松本賢子

たれゆえぐさ
タチカワ誰故草 ④

川野病院青春歌

森 忠明

盛岡に用があり、ついでと言っては啄木に失礼だが、彼の新婚の家を見学してきた。
明治三十八年(一九〇五)六月、たった一週間しか住まなかったという「我が四畳半」の、原稿用紙を置いたらいっぱいになってしまいくらいに小さな文机に両肘をつきながら、当時二十歳の天才に思い連ねた。低い天井を見つめているうちに、ふと「日本友情史」なることが湧いてきて、若い石川夫妻のことよりも、彼らを物心両面から支えたと伝え飾られている金田一京助氏のことを考えはじめた。そして、二昔前か、もっと前か、テレビドラマの中で啄木に扮する奥田瑛二氏が、「金田一君! ぼくは先に死んで君を守る!」と叫んだシーンなどが浮かんできた。
翌日は「昭和の啄木」寺山修司の故郷である三沢に行き、タクシードライバーで海へ向かった。老運転手氏と遠沖を眺めつつ、(日本友情史その2は、寺山修司と山田太一のコンビネーションだな)と独りじめしたのだった。
昭和三十年(一九五五)三月。早大一年生の寺山修司は、混合性腎臓炎で立川南口の川野病院十一号室にいた。十一年後(一九六六)、寺山に詩を認められて師事することになる私は、まだ立川二小の一年生。すずらん通りあたりで、エスケープしてきた昭和の啄木と擦れ違ったりしたかもしれない。試歩もままならぬ重症だったらしい



挿画:野崎義成

から、それはないかもしれない。
二番よく(見舞いに)来てくれたのが山田太一君で、氣立てのいやさしい人でした。病気が長びくようなので、病院の蒲団はいやだと言う修ちゃんのために山田君が、川口から送ってもらった修ちゃんの蒲団を駆まて取りに行き、しよって来てくれたのです(寺山はつ著「母の螢」)。
この部分を読むたびに、山田太一君が立川駅からの道を通って川野病院まで蒲団を運んだのかな、と思う。
私の臆げな記憶によれば、立川駅に到着した貨物は、北口改札横と柳通りに面した門から出入りしていたはずなので、親友の蒲団を背負った文学青年は東地下道を抜け、錦中央通りの北端に出て一息入れたのち、現在のWINS通りを東へ折れて川野病院に着いたのではなからうか。
山田太一……小説仲間。花をもってサルトル論なんかは始める。美少年である。
青森の恩師へ、そんなふうにいると、絶望的な筆跡。
『寺山修司その知られざる青春』の著者、故・小川太郎氏が調べたところ、寺山の短歌で最も有名になった青春歌のひとつ、
海を知らぬ少女の前に麦藁帽のわれは両手をひろげていたり
は、川野病院の暗澹たるベッドの上で作られたのだそうである。

表紙の人

天野孝一さん(錦町)

日本ミニテニス協会理事長。ミニテニスは昭和61年にお年寄り向けのスポーツとして工夫されたわが立川生まれのスポーツ。柄の短い専用ラケットとハンドボール大のカラフルなビニールボールを使い、年齢を問わずできるうにカットやスマッシュなどゲームの奥も深い。愛好者は全国に広まっている。生みの親として各地を回り技術指導や競技普及につとめる一方、現役プレーヤーとしても活躍を続けている。

柴崎体育館で 写真:細江英公

かたこと

冷夏の後にやってきた残暑にうだっているうちに、気がつくときすっかり秋が深まってきました。毎年めぐってくる季節の変化とはいえ自然のいとなみの精妙さに驚くばかりです。▼今年は江戸に徳川幕府が開かれて400年なのだそうで、江戸から東京への移り変わりを回顧するいろいろな催しが開かれています。もうひとつ、立川をはじめとする多摩・武蔵野にとって縁の深い玉川上水が開削されて350年を迎えます。▼多摩川さんぽではこの玉川上水を取り上げました。人々の命を支え続けた水路は、営々として人々によって支えられてきた水路でもありました。人のいとなみもまた偉大だと改めて思います。▼スポーツや芸術、食欲といろいろな分野で稔りのある秋。VIEWでご紹介した古民家園でのワークショップと公演は、立川の秋ならではの芸術活動としてぜひ定着させたいものです。▼コスモスの花に彩られた国営昭和記念公園もこの秋20周年。奇しくもえてびあんと同じ年齢です。えてびあんでも多彩な活動の場として親しまれたいと願います。

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/杉山清純
中薫子
デザイン ウォーターデザインアソシエイツ 池田隆男
AMNET design factory
写真 小林達実/五来孝平/松本賢子

えてびあん (C) 11月号

第22巻 通巻228号
平成15年11月1日発行
発行 えてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 瀬尾勤三
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。



「水門」

1999年 100 P

私が多摩川で最初に描いたのは水門だった。広大な空間と水面とを二分する堤、堤と堤をつなぎとめるコンクリートの塊。そこに時の流れを象徴するように水門があった。

多摩川の風景への関心はその後変化したが、十年後、この作品で再び水門を描いた。以前描いていた農業用水の水門ではなく立川市のたつぴ橋近く、下水処理場から処理水を流す水門である。

空はイエロー系の絵具を使い、手前の水面はダークグリーンをペインティングナイフで画面に擦り込んだものだ。ほぼ画面中央の赤を頂点に、全体を色面として構成している。

題材にしろ、色調をとっても、この作品は当時、母親を亡くしたことへのレクイエム（鎮魂歌）であった。

水門は私の人生のなかのある区切りの時期、場所と意味合いを変えて繰り返し風景として立ち現れるのかもしれない。